

1. 文献（論文）検索をしよう

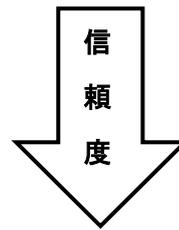
なぜ、先行研究を調べるのか

「巨人の肩の上に立つ」 Stand on the shoulders of giants

一人ひとりの研究者が生み出す知見は小さいかもしれないが、「巨人」すなわち先人たちの膨大な知識の上に積み上げることで学術の発展に貢献することができる。自身が生み出した知識もまた巨人の一部となって次の誰かの礎になる。過去の文献を一切参照していない研究成果は、内容がどれほど興味深いものであったとしても信頼性が認められず、結果として評価されない。

文献（論文）の種類

- ①私的検討 → 手紙・私的レポート（私的資料）
- ②学会発表 → 会議録・レター論文
- ③研究結果の最終まとめ → 原著論文(主に雑誌に掲載)
- ④新しい知見として評価 → レビュー・総説(主に雑誌に掲載)
- ⑤知見として定着 → 大系書・教科書（図書）



段階を踏むごとに「根拠」として信頼の置ける資料に文献検索、入手、引用の際の目安になる

文献（論文）検索はどの段階で必要か

- ①テーマ決め、研究計画段階 → 研究の背景、手順、手法を参考にする
→ 文末の引用・参考文献を参考にする（孫引き論文）
- ②考察の段階 → 自分の研究結果を先行研究と比較
- ③論文にまとめる段階 → 論文の書き方、書誌事項の書き方
→ 新たな論文が発表されていないか
→ 調査内容に過不足はないか など

研究の全ての段階において行う

テーマを考える時には、まずは**文献（論文）の種類⑤**の書籍から、関連する部分の内容を調べる
テーマを具体的に考えるには、テーマが**文献（論文）の種類③④**を調べよう。

実験の対象が決まったら、その実験に関する**文献（論文）の種類⑤**の書籍を1冊は読破する。

論文検索

まずは Google Scholar 初心者向け論文検索

Google Scholar の使い方 <https://briarpatch.co.jp/wakaruni/google-scholar/>

2. 研究テーマを決めるには

①研究（テーマ）の設定 → ②仮説の設定 → ③検証方法の模索

- ①何を明らかにしたいか？ もう明らかになっていることは調べなくていい
- ②仮説が立たない課題（テーマ）は研究方法（検証の方法）が決まりません
- ③検証方法がわからないテーマでは調べることができません。

どんな（Problem、Target）に、どんな介入があると（Intervention または Exposure）、何と比較して（Comparison）、どんな結果になるのか（Outcome）という4つの要素に分けて考える。PICO